



Vol. 74

CONTENTS

【コラム】国際情報オリンピック IOI 2018 日本大会を1年後に控えて… 谷 聖一



IOI 2018 JAPAN
TSUKUBA, IBARAKI

COLUMN



国際情報オリンピック IOI 2018 日本大会を1年後に控えて

国際情報オリンピック (International Olympiad in Informatics, IOI) は、情報科学分野における中高生を対象とした国際科学オリンピックである。情報オリンピックでは、情報科学の中でも問題を分析しアルゴリズムを設計する能力にフォーカスした競技を行っている。与えられた課題を解決するアルゴリズムを考案し、その性能(効率や解の質)を競う。競技では、考案したアルゴリズムを動作するプログラムとして実装し、そのソースコードを提出する。ICT領域のイノベーション、また、ICTを活用した諸領域のイノベーションには、目的に適した性能のアルゴリズムが不可欠である。情報オリンピックでは、まさしく、このアルゴリズム設計能力を競うのである。

国際情報オリンピックは、開催国を変えながら1989年より毎年開催されている。今年のIOI 2017 イラン大会は第29回大会となる。この国際情報オリンピックの初めての日本開催が、1年後の2018年9月1日～9月8日に茨城県つくば市で予定されている。各国は最大4名までの選手を派遣できる。例年、約80の国・地域が参加する。300人以上のアルゴリズムの若き精鋭が全世界から茨城県つくば市に集まるのである。IOIは、参加選手だけの大会ではない。各国選手団は団長と副団長が引率している。IOIでは、競技課題の最終討議をする競技前日の夜から、団長たちと選手は隔離される。隔離後、団長たちは翌日出題する課題を検討し、英語が母国語ではない国は翻訳を行う。競技中には、情報科学教育に関する国際会議が開催される。この国際会議は、団長などのIOI関係者以外にも公開されている。IOI 2018の国際会議では、日本からも多くの貢献があることを期待する。

選手は、隔離期間に限らず、団長・副団長とは別行動をする時間も多し。そこで、各国選手の世話をするガイドの協力を必要としている。ほかにも、サーバやネットワークを含めた競技環境の準備や、団長たちに提示する課題の準備など、IOI 2018の実施には、多くの協力を仰がないとならない。国外からの参加者だけでなく、かわるすべての協力者・機関にとっても良い大会となるよう、この1年準備を進めていきたい。本会会員の皆さまにもぜひ協力をお願いしたい。IOI 2018 準備に関する情報は、<https://ioi2018.jp/ioi-jp/> で提供しているので、参照いただくと幸いです。

谷 聖一 (日本大学/情報オリンピック日本委員会)